

## 【エクアドル内政・外交：2014年8月】

### 1. 内政

#### (1) オイ紙の廃刊

ア 1982年6月7日に創業し、エクアドルにおける主要日刊紙のひとつであるオイ紙が8月26日、廃刊を発表した。オイ紙は本年6月29日に紙面の発行を取り止め、インターネット版のみの報道を続けていたが、8月26日、フアン・ティバンロンボ・オイ紙編集局長は自身のツイッターで、企業監督庁により清算命令が出され、同日付で廃刊したと明らかにした。

イ オイ紙は、6月29日付紙面において、紙媒体の日刊発行をやめ、インターネット新聞に移行すること、また週に1度紙面発行を行うことを発表していた。ハイメ・マンティージャ同紙編集長は、紙媒体での発行を止めること理由として、「コミュニケーション法の発効により（メディアは）徐々に報道の自由を失い自己検閲をするようになった、また（コリア政権の発足した）7年前より政府の独立メディアに対する攻撃があった」と述べた。

ウ これに対し、コミュニケーション監督庁は、「オイ紙は15年以上前から重大な経営問題を抱えておりまた発行部数も停滞していた。にもかかわらず、マンティージャ編集長がコミュニケーション法や中央政府を非難するのは間違っている。オイ紙は460万ドルの資産、421.5万ドルの損失を計上しており、損失が企業資産の50%以上を占める場合には倒産の理由となると規定する企業法361条に違反していた」と同編集長の主張に反論するプレスリリースを発表した。

エ 8月29日、国境なき記者団はプレスリリースを発表し、オイ紙の廃刊はエクアドルメディアの多様性に影響を与えることになり残念であると述べ、またエクアドル政府は、政府に批判的なメディアを排除する政策をとっていると批判し、オイ紙がもし政府系メディアであったら、救済しようとしたらと述べた。

### 2. 外交

#### (1) 南米諸国連合(UNASUR)次期事務局長のエクアドル訪問

ア 11日、エルネスト・サンペールUNASUR次期事務局長（元コロンビア大統領）がエクアドルを訪問し、コリア大統領と会談したほか、UNASURの拠点を視察した（当館注：UNASURの新拠点地はキト市内から北東に位

置する赤道標の近くに建設中であり、本年11月に完成する見通し)。

イ サンペール次期事務局長は、「南米地域がひとつのまとまった声をあげられるように、これまでのプロセスを強化し、コリア大統領およびパティーニョ外相との会談の中で取り扱われた社会政策などのいくつかのテーマに取り組んでいく」と述べた。

ウ 22日、モンテビデオで開催されたUNASUR首脳会合においてサンペール元コロンビア大統領が新事務局長に任命された。同氏のUNASUR新事務局長への就任は、ネストール・キルチネル(元アルゼンチン大統領)、マリア・エンマ・メヒア(元コロンビア外相)およびアリ・ロドリゲス(元ベネズエラ外相)に次いで4人目となる。9月11日においてカラカスにおいてサンペール氏の正式な就任が予定されている(任期は2年)。

## (2)パティーニョ外務大臣の英国訪問

ア 17日~19日、パティーニョ外務大臣は、英国を訪問し、2012年8月16日以来2年に及び在英エクアドル大使館に軟禁状態にあるアサンジ・ウィキリークス代表と会談した。

イ 会談後、パティーニョ外務大臣は、「エクアドル政府がアサンジ代表に亡命を付与することにいたったのは、同代表が記者活動を行うにあたり政治迫害を受けていたことが調査の過程で明らかになったからであり、英国、スイス、米国政府との協議を経て決定した。この2年間で、英国政府内では外務大臣の交代や引き渡しに関する英国法の改正があり、同代表の件のように裁判にまだかけられていない人物の引き渡しは難しい状況である。本件の早期解決のため、ウェーデン政府に対しビデオ会議の利用や担当判事の在英エクアドル大使館訪問によりアサンジ代表に対するインタビューを実現することを提案してきたが、同国政府から回答がなかったため、本調査は進展していない。この状況を早期に解決すべきである。エクアドル政府が同代表に亡命を付与する立場に変更はない。英国およびスウェーデン政府と協力して本件解決に向け努力していく」と述べた。

ウ 17日、コリア大統領は、自身のツイッターにおいて、「アサンジ代表は2年にわたり在英エクアドル大使館に軟禁状態にある。どこに自由で独立したメディアがあるのか、もしエクアドルでこれが起こったらどうなるか」と問いかけた。